

～なぜ「学習困難児研究会」を開催するのか～

「すがもキッズ」は、内閣府の管理下にあり相模原市を所轄庁とする特定非営利活動法人です。すがもキッズでは、相模原市内での学童クラブ運営を始め、カウンセリング業務、教育支援業務、各種講演会や相談会、海外への子どもたちへのボランティア支援などを実施しています。最近ではコロナ禍に見舞われる前 2020 年にカンボジアの小学校の子どもたちに文具などを届けることを実施しました。教育を通して社会に貢献することをスローガンとし、また SDGs にも賛同し「人や国の不平等をなくす」ことや「質の高い教育をみんなに」届けることを目標にしています。今回の研究会のテーマである「学習困難児」とは、学習が低い子どもという意味ではありません。学習に取り組みたいのに努力に見合った成果を出すことに苦労している子どもたちのことを指しています。これは外から簡単に見えることではないため、周りが理解したり気がついたりすることが大変困難なため見落とされる事が多くサボりや怠けと判断されてしまい、大人たちが理解してくれないことに失望する子どもも多くいます。研究会では、どうすることで気がつくことができるようになるのかを中心に勉強していきたいと思います。

【2024 年度に参加していただいた方小学校】

横山小学校 橋本小学校 九沢小学校 向陽小学校 作の口小学校 鹿島台小学校
星が丘小学校 新磯小学校 清新小学校 青葉小学校 双葉小学校 千木良小学校
大野北小学校 谷口台小学校 相原小学校 大沢小学校 谷口小学校 中央小学校
当麻田小学校 富士見小学校 並木小学校 弥栄小学校 淵野辺小学校
淵野辺東小学校 津久井中央小学校



ご参加ありがとうございます
皆さんの力で困っている子どもたちが
住みやすい相模原を目指しましょう！

【ご協力頂いている企業・団体】※敬称略

公益財団法人斎藤茂昭記念財団 公益財団法人かながわ生き生き市民基金



株式会社 育伸社 横浜営業所 有限会社 開成図書出版 中央教育研究所株式会社 株式会社プロッサム 横浜営業所

NPO 法人 メダカのお弁当 教育開発出版 株式会社 横浜営業所 株式会社 富士産業 株式会社ユニックス

NPO 法人 ぴあっと 株式会社 tassa 開成企業株式会社 株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー横浜営業所



ご支援を

お願いいたします。

NPO 法人「すがもキッズ」は、皆さまに支えられて活動しております。

【特定非営利活動法人「すがもキッズ」の活動】

- ・カンボジア子ども支援
- ・発達障がい、グレーゾーンの相談受付
- ・学習困難児研究会の開催
- ・すがもキッズ専属の公認心理士の在籍
- ・SDGs 推進 4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら市 相模原市 青葉区

SUGAMO
すがもキッズ
ADVANCE SCHOOL

広報

すがもだより

【後援】相模原市 相模原市教育委員会 相模原市社会福祉協議会

2025

02.08

特定非営利活動法人
すがもきっず発行



2025年度「学習困難児研究会」～支援が必要なこどもたち～

テーマ「スクリーンタイムと発達障害の関係」

～子どものゲーム・スマホとの付き合い方はどうすればいいの？～



2025年6月に開催予定！
開催情報は公式LINEでお届けします。
「すがもキッズ」で検索♪



ホームページ

特定非営利活動法人「すがもキッズ」

<https://sugamokids.or.jp/>



ウェルビーイングってなんだろう？

最近、よく目にしたり聞いたりする「ウェルビーイング（Well being）」。
なんとなくで使ったり読んだりしていませんか？ウェルビーイングの考え方は
現在、世界中で重要なものと認識されています。正しく知ること自分自身を
良い方向に向かわせることもできるかもしれません。困っているのは
子どもたちだけではなく、大人たちも同様です！



【第3回学習困難児研究会のご報告】

報告者：すがもキッズ 西川英佑

今回の学習困難児研究会は、二部構成で開催いたしました。第1部では、代表の西村より「Well-being」についての話をさせていただきました。最近よく聞くこの言葉。皆さんどこまで理解していますか？筆者である私も代表の言葉を聞きながら、いままで深く考えずに聞いていたことを実感しました。大切な4つの因子。「やってみよう！」「ありがとう！」「心の切り替え」「自分は自分」確かにこれらは、現代の子どもたちは



持ち合わせていないものなのかもしれません。しかし、周りの環境や親、先生、友達の影響で「Well-being」な状態になれることを学びました。特に境界知能の子どもたちは、Well-being からは遠い位置にいることも理解できました。しかしそれも、正しい知識や環境次第で Well-being に近づくこともできることも理解することができました。また、第2部では、「いろいろな角度から「困りごと」をみんなで考える」というテーマで、会場の皆さんと「こんな時どうしたらいい？どうしてほしい？」を様々な立場（先生・当事者・スクールカウンセラー・親目線など）から意見を出してもらいました。始めは、なかなかお互いギクシャクした中でしたが、時間が経つにつれて、お互いの立場や考え方を理解することによって、多くの意見を出していただきました。最後には、「まだまだ話したい」「次回は話し合う時間だけでもいい！」「共有できてよかった」「新しい意見を聞くことができた！」など、学習困難児研究会に参加して良かったと実感していただけた様子がありました。特になかなか聞くことができない立場の意見（先生側や当事者の話など）は多くの人の考え方に影響したように私は感じました。次回の2025年度の学習困難児研究会では、みんなで考える・話ができる場をご用意できればと考えています。



【第3回学習困難児研究会】

1. ご挨拶（西川）
2. 「Well-being」について
3. 様々な角度から考える「困りごと」
4. 最後のご挨拶

講演依頼やご相談などのお問い合わせは
特定非営利活動法人「すがもキッズ」まで
mail:enishikawa@sugamokids.or.jp
Tel:042-813-8558

【代表：西村より】～24年度もアメリカで「学習困難児研究会」を開催しました～



相模原市を本拠地とする「NPO 法人すかもキッズ」

では北米シアトルとポートランドで「子どもたちの well-being」について2025年3月の講演会日程を

無事に終えて帰国しました。well-being の大切さや

子どもを支援するためには、まず本当の子どもの姿を

理解することの大切さなどや具体的な取り組み方などに

ついてお話をさせていただきました。両講演会では

保護者だけでなくアメリカで活躍されている教育関係

者の方々にもご参加いただき、意見交換や質疑にも

対応させていただきました。今回の海外講演会を

通じて、凸凹を持つ子どもや学校へ行けない子どもの

現状は、日本でもアメリカでも同様だが、社会の取り組み方がまるで違うことに気づかされました。子どもが息苦しく

なっているご家庭の特徴は、親の希望が子どもの目標になってしまっているご家庭でした。

幼少期の子どもはとても純粋です。親の喜ぶ顔が見たいからこそ、親の希望通りに生きようとします。当然ですが、

これが悪いこととは思っていません。親心だと思いますから。ただ一つ、気をつけて欲しいことがあります。

子どもがそれを望んでいるのか？ということです。子どもの夢に向かって、親が応援する姿は大変微笑ましいものです。

しかし、子どもが望まないまま親の希望に向かって子どもが進むことは「子どもの自主性」を奪ってしまいかねません。

これについては、工藤勇一先生も、よく書かれています。今の子どもたちには、自分で考え、自分で選択して進む力が

弱くなってしまっている気がします。「失敗をさせたくない」という、親の気持ちも理解できますが「失敗しても、

またやり直したらいいよ。」と笑顔で言える社会になると良いですね。



【すがもキッズが伝えていきたいこと】

子どもと大人の視点はまるで違います。大人にとって当たり前のことが子どもにとっては全く理解できないこともあります。大人同士でさえ育ち方や生活環境が異なれば考え方も違ってしまいます。

大人の目線や考えで何かを伝えるのではなく、もう少し子どもの気持ちになって伝えてみませんか？

子どもたちに幸せになって欲しいと考える親の気持ちはいつの時代も同じであると考えたいですが、子どもに幸せになって欲しいと思うことと、無意識のうちに自分の価値観を押し付けてしまうことは全く違う意味になってしまいます。また、私たち「すがもキッズ」では、子どもたちに「優しい人に育って欲しい」と願い、周囲の社会に対して理解を求めるためこのような活動をしています。

自分や家族だけでなく友だちや周りの他人、そして動物にも…。もちろん、勉強ができることも大切なことです。

しかし、まず人として身に着けることは「思いやり」だと考えています。世界幸福度ランキングで、日本は先進国の中でも低いレベルにあり韓国や中国と同等の 50 位前後にいます。この 3 つの国に共通していることは道徳ではなく学歴が優先と考えられていることです。特に日本は「寛容さ」が全世界でも最下位クラスの 92 位です。身近な例を挙げると、横断歩道の前で立っていても、多くの車が人に気づかず通り過ぎてしまい、目の前の道路を渡ることができない場合があります。皆さんも一度は経験があるのではないのでしょうか。困っている子どもは、まさに「横断歩道の前に立っている人」のような存在です。誰かが気づいて止まらない限り、いつまでも前に進むことができないのです。

Hayashi's Talk



今回も多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。前半の登壇者のディスカッションでは、「個人と集団」「居場所」「子ども・保護者の経験の大切さ」などがキーワードでした。後半の参加者のディスカッションでは、「子どもに無理強いせず、身体や心が成長するのを待つ」「子ども・保護者と教職員の相性に、合う合わないがある」などの意見が出ました。強引にまとめると、「学校には個人と集団のせめぎ合いがあり、苦しんでいる子どもが居場所を見つけるためには、その子の経験を大切にすると良い。支援にあたっては、子どもの成長を待つ姿勢も大事だが、子ども・保護者と支援者の相性が合わないことがある」となります。まさに今の学校現場を端的に表していますね。それらを踏まえて、学校や保護者、子どもは、今後どうすれば良いのでしょうか？ 私の反省でもあります。今の学校や家庭は「苦しんでいる子どもの経験」「待つこと」が大事にされていません。その子がなりたい姿よりも、大人がもつ「子どもはこうであるべき」という理想。待つことよりも、「速く、たくさん、レベル高く」という課題（学習だけでなく、人間関係や生活面も）。まずは立ち止まって、子どもは「何が苦しいのだろうか？」と考える。大人はその気持ちを聞き、その子がどうなりたいのかを一緒に模索する。その際、子どもが自分で選んで言語化することが大切です。これを行動分析学では「目標の自己選択と言行一致」といいます。自分で選んで言語化したことは、行動が起こりやすく、目標も達成しやすくなります。相性の合わなさは「自分では気づかない、異なる視点」と捉え、貴重なものとする。これらを繰り返すことによって、少しずつ前に進めるのではないのでしょうか。来年度もぜひ一緒に考えていきたいです。

ここ数年「ウェルビーイング」という言葉を耳にすることが多くなりました。

簡単に言うと「常に幸せに生きている状態」を表しています。

例えば「できない」ではなく「やってみよう」と思える心。「ありがとう」と感謝できる心。

失敗したことで「弱点を知ることができた！」と強みに切り替える心。

これらの心は、周りの大人の対応によって育てることができます。

言い換えれば、横断歩道に立っている人に気づかない社会である限り、子どもたちに「寛容さ」という人に

対する思いやりは身につかないということです。そのお手本になるのが「周りの大人たち」の対応です。

保護者や先生、そして地域の人たちが子どもたちのために一丸となり、子どもの思いやりを育てることは

できないのでしょうか？それが合理的配慮にもなります。「すかもキッズ学習困難児研究会」では、

困っている子どもを取り巻く社会環境がどうあるべきかについて、今後も当事者と実例を交えて話し合いながら

皆さんと一緒に考えていきたいと思います。一人でも多くの皆さんに他人事とせず興味を持って参加していただき、

他人に思いやることが当たり前の社会になり「横断歩道の手前で、子どもに気づき車が止まるキッカケ作り」に

なることを心から願っています。

ウェルビーイングって何！？

フリー百科事典 Wikipedia によると、

ウェルビーイング（英：Well-being）とは、誰かにとって本質的に価値のある状態、つまり、ある人にとってのウェルビーイングとは、その人にとって究極的に善い状態、その人の自己利益にかなうものを実現した状態である。とあります。

つまり、**心と体の健康、そして幸福感を合わせた状態です**。ただ病気がないだけでなく、人生を楽しんでいるかどうかも大切。ストレスや人間関係、自己成長など、いろんな面で充実していることが求められます。幸せを感じるためには、自分を大切にすることが本当に重要だという考え方です。

「ありのままに」
(独立と自分らしさ)

「ありがとう」
(つながりと感謝)

「やってみよう」
(自己実現と成長)

「なんとかなる」
(前向きと楽観)

大切な
4つ